

---

# 波賀町上野地区の昆虫類

INSECT FAUNA OF UENO, HAGA-CHO IN HYOGO PREFECTURE

(調査期間：平成6年9月、10月)

相坂 耕作

---

## 1. はじめに

姫路昆虫同好会代表世話人 相坂 耕作

本報告書は兵庫県龍野農林事務所の依頼により、生活環境保全整備事業として兵庫県宍粟郡波賀町上野地区の昆虫調査の結果をまとめたものである。ただし期間が平成6年の9月、10月のわずか2カ月だけの調査である。

兵庫県宍粟郡波賀町は兵庫県最高峰の氷ノ山をも有する地域のため比較的昆虫分布調査の進んでいる町ではあるが、そのほとんどは赤西、音水、引原、戸倉、坂の谷などであり、今回の調査地域である上野地区は特定種のチョウを除くとファウナがほとんど知られておらず波賀町の空白地となっている。単年度事業のわずか2カ月の調査で、かつ採集シーズンのほとんど終わった時期から調査に入ったため不十分な点が多いが、以前の記録および今回の調査によりまとめた本報告が、おおまかではあるが上野地区の昆虫相の概要をつかむ基礎的な重要資料となるものと思われる。

これからの兵庫県の環境保全を計るために、これらの基礎資料を基にさらに調査時期及び調査地域等を広げ、かつ近隣地域間の昆虫相と環境を比較し検討できるだけの質量を備えた資料が早期に整備されることを望みたい。

なお標本の同定等については多数の専門家の助言や援助を受けた。ここに厚く御礼申し上げる次第である。

## 2. 調査者及び調査同定協力者

相坂耕作	姫路昆虫同好会代表世話人
東輝弥	日本蜻蛉学会会員
壺坂孝一	生態写真家
相馬明直	姫路昆虫同好会会員
大津賀秀樹	兵庫県竜野農林事務所治山課
蛭田永規	兵庫県姫路農林水産事務所治山課
稲田和久	兵庫陸水生物研究会
久後地平	兵庫陸水生物研究会

### 3. 調査の概要

#### (1) 調査地域

次ページの上野地区の図番号④⑤地点を中心に7回の現地調査を行なった。特に留意した点は、湿地に生息する豊富な昆虫ばかりでなく現況であるスギ、ヒノキの人工林に生息する昆虫をも出来るだけ気をつけ調査した。

#### (2) 現地調査及び調査人員

1回目	1994年9月2日	3名
2回目	1994年9月15日	2名
3回目	1994年9月18日	3名
4回目	1994年9月22日	2名
5回目	1994年9月23日	2名
6回目	1994年10月9日	1名
7回目	1994年10月16日	1名

#### (3) 調査方法

##### ① 任意での採集

スイーピング、ビーティングなどにより調査ポイント进行调查

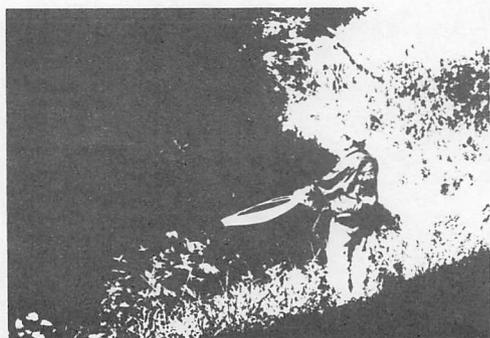
##### ② ライトトラップ

夜間にブラックライト、青色蛍光灯、白色蛍光灯を点灯し走光性昆虫进行调查

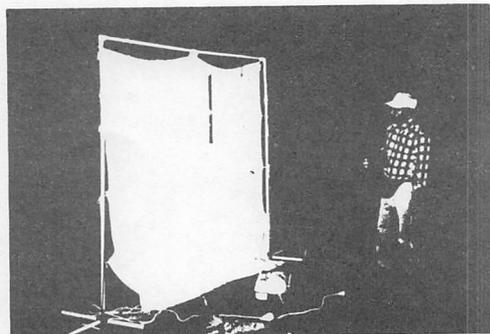
##### ③ 水生昆虫調査

水生用網にて水中の昆虫进行调查

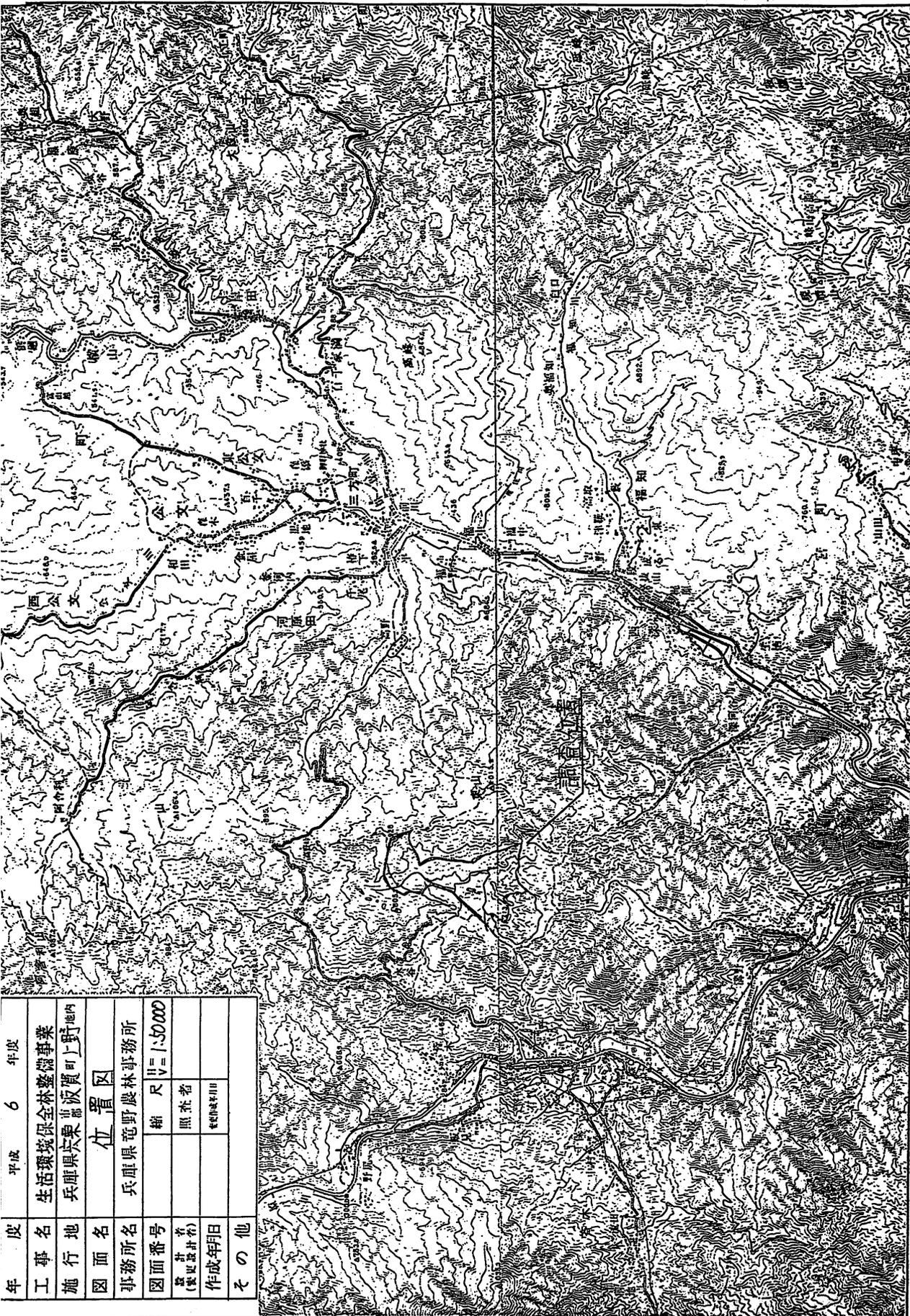
なお、今回はポイントの調査地点が湿地のためベイトトラップは行わなかった。



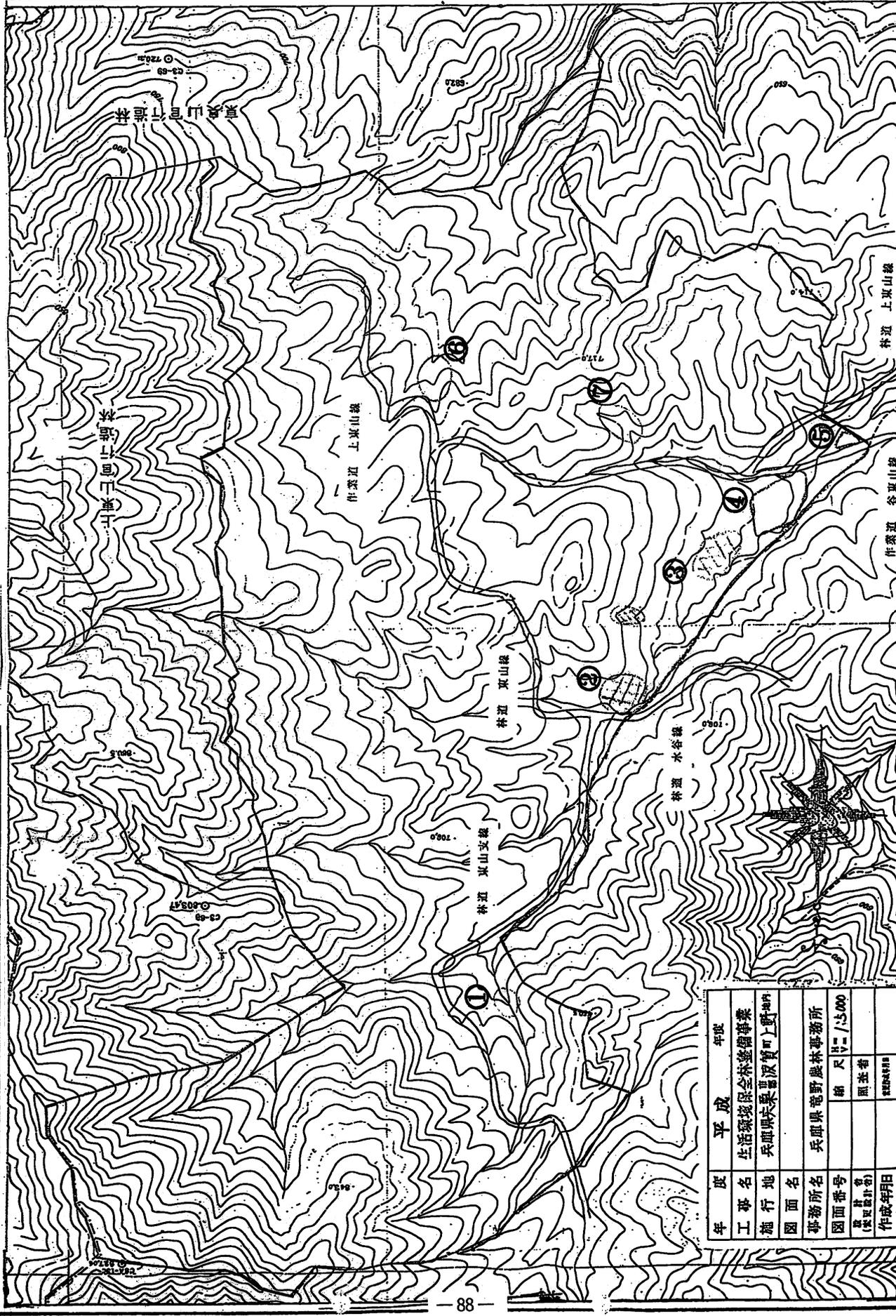
ビーティングによる調査



ライトトラップによる調査



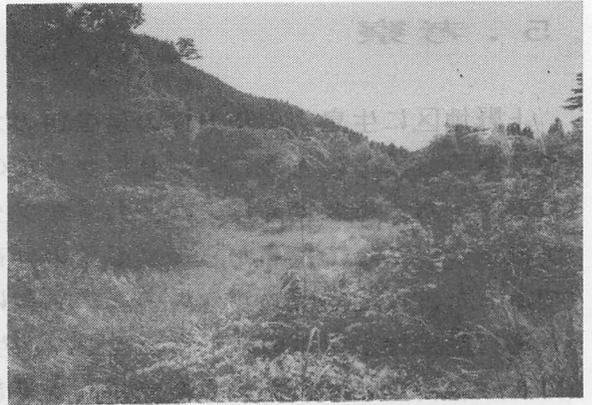
年度	平成 6 年度
工事名	生活環境保全林整備事業
施行地	兵庫県赤松郡坂賀町上野地区内
図面名	位置図
事務所名	兵庫県竜野農林事務所
図面番号	縮尺 1:50,000
著者 (家屋敷計者)	調査者
作成年月日	平成6年4月1日
その他	



年度	平成	年度	
工事名	生活環境保全林整備事業	縮尺	1/5,000
施行地	兵庫県赤松郡上野	照査者	2024年10月
図面名	兵庫県赤松郡上野		
事務所名	兵庫県赤松郡上野		
図面番号	1/5,000		
作成年月日	2024年10月		



スギ、ヒノキの人工林



調査地点の湿地



オニヤンマが多くみられる



ナツアカネも湿地に多い



調査ポイントの確認



湿地で昆虫を採取

## 現地調査の状況

## 5. 考察

上野地区に生息する陸上性の昆虫類の大部分は、平地から低山地にみられる種類である。調査に入ったのが9月からなので森林性のセミなど大型昆虫は比較的少なかった。確認できたのは、わずかつくつくボウシ、ミンミンゼミであり、針葉樹が多いことで標高からエゾゼミの分布が知りたかったが今回は時期的に無理であった。反面、湿地が今夏の異常気象にもかかわらずわずかながら残っていたため、高山性トンボのルリボシヤンマの生息が確認された。チョウではクロコノマチョウ、ゴイシジミの生息が確認できたことは興味深い。また、ヒメクサキリ、エソツユムシ、トビナナフシ、エサキヒメコシボソガガンボなど比較的珍しい種の生息も確認できた。

## 6. 調査のまとめ

採集した昆虫類は各分野専門研究者により同定願った。各目(類)の同定者は次の通りである。

トンボ	東 輝弥、相坂耕作
水生昆虫	稲田和久、久後地平
カワゲラ	稲田和久
バッタ	相坂耕作
ナナフシ	相坂耕作
カマキリ	相坂耕作
ゴキブリ	相坂耕作
ハサミムシ	相坂耕作
カメムシ	相馬明直、相坂耕作
アミメカゲロウ	相坂耕作
コウチュウ	相馬明直、相坂耕作
ハチ	相坂耕作
ハエ	相坂耕作
トビケラ	久後地平
チョウ	相坂耕作
水生昆虫	稲田和久

なお使用した図鑑の主なものは下記の通り。

原色日本蝶類図鑑 保育社 川副昭人・若林守男著  
原色昆虫生態図鑑 (Ⅱ) トンボ編 保育社 石田昇三著  
原色日本昆虫図鑑 (下) 保育社 伊藤修四郎他著  
原色日本甲虫図鑑 I～IV 保育社 林匡夫他著  
原色日本蛾類図鑑 (上・下) 保育社 井上寛他著  
図説日本のゲンゴロウ 文一総合出版 森正人・北山昭著

## 7. チョウ目

もう15年もなるだろうか、調査地の上野地区にはヒョウモンモドキが生息していた。調査者の私が県下で初めて見た、またそれが最後のヒョウモンモドキであった。つまり環境庁が1992年に公表したレッドデータブックにおいて危急種とされている珍種のチョウであり、さらに兵庫県版レッドデータブックにおいては、もはや絶滅種として指定されるような幻のチョウである。昨年が発生時期に湿地を調査したが残念ながら発見できなかった。また同地には同じく兵庫県版レッドデータブックの絶滅危惧種になる予定のウスイロヒョウモンモドキも生息していたので、今後の調査に期待したいものである。今回の調査では7科27種の生息が確認できた。

### チョウ類

#### アゲハチョウ科 Papilionidae

ミヤマカラスアゲハ *papilio maackii*

クロアゲハ *Papilio protenor*

キアゲハ *Papilio machaon*

ナミアゲハ *Papilio xuthus*

#### セセリチョウ科 Hesperiidae

ヒメキマダラセセリ *Ochlodes ochracea*

コチャバネセセリ *Thoressa varia*

イチモンジセセリ *Parnara guttata*

キマダラセセリ *Potanthus flavum*

#### シロチョウ科 Pieridae

キチョウ *Eurema hecabe*

#### シジミチョウ科 Lycaenidae

ウラギンシジミ *Curetis acuta*

ベニシジミ *Lycaena phlaeas*

ツバメシジミ *Everes argiades*

ゴイシジミ *Taraka hamada*

日本に産する唯一の肉食性のチョウ。現地のタケやササにつくタケノアブラムシを食べて成長する。

マダラチ ヨウ科 *Danaidae*  
アサギマダラ *Parantica sita*

タテハチ ヨウ科 *Nymphalidae*  
ミドリヒ ヨウモン *Argynnis paphia*  
ウラギンヒ ヨウモン *Fabriciana adippe*  
メスグロヒ ヨウモン *Damora sagana*  
オオウラギンスジヒ ヨウモン *Argyronome ruslana*  
ウラギンスジヒ ヨウモン *Argyronome laodice*  
コムラサキ *Apatura ilia*  
イチモンジチ ヨウ *Limenitis camilla*

ジャノメチ ヨウ科 *Satyridae*  
ジャノメチ ヨウ *Minois dryas*  
ヤマキマダラヒカゲ *Neope nipponica*  
ヒメキマダラヒカゲ *Harima callipteris*  
コジャノメ *Mycalesis francisca*  
クロヒカゲ *Lethe diana*  
クロコノマ *Melanitis phedima*

## ガ類

シャクガ科 *Geometridae*  
エグリツマエダシャク *Gonodentis arida*  
ハガタナミシャク *Eustroma melancholica melancholica*  
トラフツバメエダシャク *Tristrophis veneirs*

スズメガ科 *Sphingidae*  
ホウジャク *Macroglossum stellatarum*

イカリモンガ科 *Callidulidae*  
イカリモンガ *Pterodecta felderi*

マルハキバガ科 *Oecophoridae*  
クリミガ *Cydia splendana*

ヤガ科 *Noctuidae*  
カラスヨトウ *Amphipyra livida corvina*

## 8. トンボ目

調査区域には、湿地が数か所みられ、また、水深数センチ程度の水たまりが随所にみられる。この近くで湿地性のハッチョウトンボや止水性のトンボが多く、今回の調査では7科19種が確認された。

イトトンボ科 Agrionidae

クロイトトンボ (目撃) *Cercion calamorum*

アオイトトンボ科 Lestidae

アオイトトンボ *Lestes sponsa*

ホソミオツネトンボ *Ceylonolestes grailis peregrinus*

カワトンボ科 Calopterygidae

ニシカワトンボ (記録) *Mnais strigata*

ミヤマカワトンボ (記録) *Calopteryx cornelia*

サナエトンボ科 Gomphidae

ダビドサナエ (記録) *Davidius nanus*

オニヤンマ科 Cordulegasteridae

オニヤンマ *Anotogaster sieboldii*

湿地及び流水の両域に見られる

ヤンマ科 Aeschnidae

ルリボシヤンマ *Aeschna juncea*

高山トンボとして知られている。播磨地方では大変珍しく、兵庫県版レッドデータブックの稀少種扱いとなっている。

ミルンヤンマ *Planaeschna milnei*

カトリヤンマ *Gynacantha japonica*

トンボ科 Libellulidae

ハッチョウトンボ (記録) *Nannophya pygmaea*

シオヤトンボ *Orthetrum japonicum japonicum*

シオカラトンボ *Orthetrum albistyrum speciosum*

オオシオカラトンボ *Orthetrum triangulare melania*



## 9. バッタ目

調査区域には、湿地が数か所みられたため、湿地性のバッタ目が多いのではと期待したが案外少なかった。しかし、標高が高いため高山性のバッタ目が生息していた。今回の調査により8科22種が確認された。

### キリギリス科 Tettigoniidae

ナミツユムシ *Phaneroptera falcata*

エゾツユムシ *Kuwayamaea sapporensis*

県下では山地のみにしられる。

ホシササキリ *Conocephalus maculatus*

ヒメギス短翅型褐色 *Metrioptera hime*

ヒメギス短翅型背緑色 *Metrioptera hime*

いずれも短翅型しか発見できなかった。

ヒメクサキリ *Homrocoryphus jezoensis*

北海道では平地に生息するが、本州では山地に生息している。県下ではやや高山にて発見されている。

ミドリササキリモドキ *Xiphidiopsis suzukii*

### コオロギ科 Gryllidae

エンマコオロギ *Teleogryllus testaceus*

ミツカドコオロギ *Loxoblemmus doenitzi*

クマコオロギ *Gryllus minor*

マダラスズ *Pteronemobius nigrofasciatus*

カンタン *Oecanthus iongicauda*

### ヒシバッタ科 Tetrigidae

トゲヒシバッタ *Criotettix japonicus*

ヒシバッタ *Acrydium japonicus*

### バッタ科 Locustidae

オンブバッタ *Atractomorpha lata*

ショウリョウバッタ *Acrida turrita*

ツマグロイナゴモドキ *Necostethus magister*

ヒロバネヒナバッタ *Chorthippus latipennis*

イナゴ科 (イナゴ類)

コバネイナゴ *Oxya yezoensis*

フキバッタ *Parapodisma sp.*

ノミバッタ科 *Tridactylidae*

ノミバッタ *Tridactylus japonicus*

コロギス科 *Gryllacridae*

ハネナシコロギス *Nippancistroger testaceus*

カマドウマ科 *Rhaphidophoridae*

カマドウマ *Diestannena apicalis*

## 10. カマキリ目

次の1科2種が確認できた。

カマキリ科 Mantidae

オオカマキリ *Tenolera aridifolia*

ハラビロカマキリ *Hierodula patellifera*

## 11. ナナフシ目

次の1科3種が確認できた。なかでもトビナナフシの分布は以外であった。

ナナフシ科 Phasmatidae

トビナナフシ *Micadina phluctaenoies*

はねがあり、普通のナナフシとすぐ区別できる。ミズナラの葉上にて発見された。県下での分布は案外少ない。

エダナナフシ *Phraortes illepidus*

ナナフシモドキ *Baculum irregulariter-dentatum*

## 12. ゴキブリ目

チャバネゴキブリ科 Blattellidae

モリチャバネゴキブリ *Blattella nipponica*

### 13. カメムシ目

#### カメムシ科 Pentatomidae

トゲカメムシ *Carbula humerigera*

ツマジロカメムシ *Menida violacea*

クサギカメムシ *Halyompha mista*

シロヘリカメムシ *Aenaria lewisi*

シモフリクチブトカメムシ *Eocanthecona japonicola*

#### ヘリカメムシ科 Coreidae

オオヘリカメムシ *Molipteryx fuliginosa*

ホシハラビロヘリカメムシ *Hoeocerus unipunctatus*

#### ツノカメムシ科 Acanthosomidae

ベニモンツノカメムシ *Elasmostethus humeralis*

#### クヌギカメムシ科 Urostylidae

ヘラクヌギカメムシ *Urostylis annulicornis*

#### サシガメ科 Reduviidae

ヤニサシガメ *Velinus nodipes*

#### セミ科 Cicadidae

ミンミンゼミ *Oncotympana maculaticollis*

ツクツクボウシ *Meimuna opalifera*

#### アワフキムシ科 Cercopidae

テングアワフキ *Philagra albinotata*

マダラアワフキ *Awafukia nawai*

#### ミミズク科 Ledridae

ミミズク *Petaloccephala discolor*

### 14. ハチ目

#### ベッコウバチ科 Pompilidae

オオモンクロベッコウ *Anopilus samariensis*

ツチバチ科 Scolidae

ハラナガツチバチ *Campsomeris schulthessi*

スズメバチ科 Vespidae

クロスズメバチ *Vespula lewisi*

アリ科 Formicidae

ムネアカオオアリ *Camponotus obscuripes*

## 15. ハエ目

ハナアブ科 Syrphidae

オオハナアブ *Megaspis zonata*

コシボソガガンボ科 Ptychopteridae

エサキヒメコシボソガガンボ *Bittacomorphella esakii*

## 16. コウチュウ目

### ゲンゴロウ科 Dytiscidae

ヒメゲンゴロウ *Rhantus pulverosus*

北海道・本州・九州・南西諸島・小笠原・サハリン・台湾・朝鮮・ヨーロッパ・オーストラリア・北アフリカなど広域に分布する種。成虫は一年中みられる。様々な水域に生息する。

### コガネムシ科 Scarabaeidae

コアオハナムグリ *Oxycetonia jucunda*

コイチャコガネ *Adoretus tonuimaculatus*

### ガムシ科 Hydrophilidae

キベリヒラタガムシ *Enochrus japonicus*

### テントウムシ科 Coccinellidae

カメノコテントウ *Aiolocaria hexaspilota*

ナミテントウ *Harmonia axyridis*

シロトホシテントウ *Calvia decemguttata*

### テントウムシダマシ科 Endomychidae

ルリテントウダマシ *Endomychus gorhami*

### ハムシ科 Chrysomelidae

エノキハムシ *Pyrrhalta tibialis*

チビカサハラハムシ *Demotina decorata*

ムナグロツヤハムシ *Arthrotus niger*

### オサムシ科 Carabidae

ホソアトキリゴミムシ *Dromius prolixus*

### ハネカクシ科 Staphylinidae

アオバアリガタハネカクシ *Paederus fuscipes*

コアリガタハネカクシ *Megalopaederus lewisi*

### ゾウムシ科 Curculinidae

カシアシナガゾウムシ *Meiisolobus piceus*  
 オオクチブトゾウムシ *Macrocorynus variabilis*  
 カシワクチブトゾウムシ *Myllocerus griseus*

カミキリムシ科 *Geranbycidae*

トガリシロオビサビカミキリ *Pterolophia caudata*

## 17. トビケラ目

ヒゲナガカワトビケラ科 Stenopsychidae

ヒゲナガカワトビケラ *Stenopsyche marmorata*

北海道・本州・四国・九州に分布。山地、平地の流水に生息。

マルバネトビケラ科 Phryganopsychidae

シロフマルバネトビケラ *Phryganopsyche brunnea*

本州に分布。山地溪流のよどみに生息する。

カクツツトビケラ科 Lepidostomatidae

ヤマトカクツツトビケラ *Yamatopsyche tsudai*

本州・四国・九州に分布。山地溪流、平地の流水に生息。

## 18. カワゲラ目

オナシカワゲラ科 Nemouridae

ジュボンオナシカワゲラ *Amphinemura decimceta*

カワゲラ科 Perlidae

クロヒゲカミムラカワゲラ *Kamimurca quadrata*

スズキクラカケカワゲラ *Paragnetna suzukii*

## 19. シリアゲムシ目

シリアゲムシ科 Panorpidae

ヤマトシリアゲ *Panorpa japonica*

## 20. ハサミムシ科

クギヌキハサミムシ科 Forficulidae

アルマンコブハサミムシ *Anechura harmandi*

## 21. アミメカゲロウ目

クサカゲロウ科 Chrysopidae

ヨツボシクサカゲロウ *Chrysopa septempunctata*

## 22. 上野地区の自然と 環境保全等の留意点

上野地区のほぼ全域が針葉樹相となっているので昆虫の分布には貧弱な林である。反面、面白くないので採集者も少なく、自然保護の立場からはよい結果ともいえる。調査中の9月22日深夜にシカに出会った。将来、植栽木が食害されるおそれが十分ある。

湿地は陸地化がかなり進んできている。その証拠としてススキ等を食草とするクロコノマチヨウが採集されている。上野地区は過去の記録と比較して既に姿を消したチヨウもあるが、現在も草原性のヒヨウモンチヨウ類がかなり生息している。広葉樹林のみを増やすことだけに絞らず、草原を残し、また湿地を陸地化させないようにして、変化に富んだ植生がみられるよう望みたいと思う。